

## 職員が聞いたつぶやき

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうにかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけるものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

地区の絆を、ずっと引き継いでいきたい。

役場職員ともっと身近に話す機会がほしい。

公共交通手段が少なくなった。いざというとき、困ることもある。

一人暮らしのお年寄りは、家を維持していくのも大変。

世代交代をどうすればいいか…。

あなたの  
お力貸して  
ください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。賀美石にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。

また、かわら版の作成に協力してくださる方も大歓迎です。そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）  
TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

## 編集後記

賀美石かわら版もついに第3号。取材に快く応じてくださった皆さん、ありがとうございました。

今回は、賀美石地区の名木をメインに取り上げました。地区を見つめ続けてきた名木は、賀美石の大きな魅力「歴史と自然」をよく現わしていると思います。児玉さん、高橋さん、木幡さんそれぞれのお宅で、名木にまつわるお話もたくさん伺いました。今回は少ししか取り上げられませんでしたがいずれ機会を見てご紹介したいと思っています。

また、東米泉・大清水の合同花見会では、地区の発展を支えた絆を知り、感動しました。ここの開拓・入植の歴史は、書物を読んで知っていたつもりでしたが、実際にお話を聞かなければわからなかったことがたくさんありました。一口に賀美石と言っても、それぞれの地区の歴史があり、人の想いがあります。それを大切にしなければいけないと、改めて気を引きしました。

今後も、皆さんに賀美石のことをたくさん教えていただきながら、地域の将来を一緒に考えさせていただけたらと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった賀美石。

# 賀美石かわら版 第3号

発行：加美町協働のまちづくり推進課  
発行日：平成29年9月1日  
連絡先：〒981-4292  
加美町字西田三番5番地  
TEL：0229-63-3215  
FAX：0229-63-2037  
E-mail：kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp



名木の前で記念撮影

平成29年7月19日、中新田高校2年生の3名が職場体験の一環で賀美石地区を訪れました。

今回の職場体験の目的は、高校生たちに地区の魅力を探り出してもらうこと。賀美石にいくつかある名木のひとつ「児玉家のサワラ」の取材を一緒に行いました。高校生たちの明るい笑顔で場もなごみ、取材に対応して下さった児玉さんから、たくさんのエピソードをお聞きすることができました。

「児玉家のサワラ」は樹齢300年以上と伝えられています。もとはひとつの根から二つに分かれていましたが、ひとつは台風で折れてしまったそう。折れた傷はサワラに大きく刻み込まれていました。それでも、その後何十年も雨風に耐え続けているサワラの強さに、一同感心しきりでした。

もうひとつ高校生の心を強く捉えたのが、昔の野球の話。戦時中の物が無い時代、子どもたちはバットとボールのかわりに、木の棒と草を丸めた玉で野球をしていたそうです。そのたくましさに衝撃を受けていました。

一時間に及ぶ取材を終え、高校生たちは「見ただけではわからないサワラの歴史が、お話を聞いてよくわかった。」「昔の食卓が今とは大違いで驚いた。」「ゲームも携帯もない時代の子どもたちの暮らしを知ることができた。」と感想を伝えてくれました。

物に、人に、刻み込まれた歴史。それが賀美石の大きな魅力であるということ。そして、その宝物を見つけるには、地域の人と正面から向き合い、お話を伺うのが大切ということ。初々しい高校生たちを通して、わたしたちも改めて学んだひとときでした。



一生懸命取材をする高校生たち。





## 東米泉・大清水 合同花見会



平成29年4月23日、大清水ふるさと改善センターで行われた、東米泉・大清水合同の花見に参加させていただきました。

東米泉は旧宮崎町、大清水は旧中新田町ですが、国の計画により一体的に開拓・入植が行われた歴史があります。戦後すぐの大変な時代にゼロから土地を開墾し、助け合いで暮らしてきた絆は今も強く、その名残である花見会は、30年以上も前から継続して行われているそうです。参加者の方は「毎年楽しみにしている」「年齢の近い人同士で話せるのがいい」と話していました。



左の写真は、昭和36年8月15日に建立された「拓魂碑（たっこんひ）」です。刻まれている碑文”おほらかな 和につどい 愛と美と真の世界を ひたすらに拓き求めん”を毎年11月に契約講の講員の方々と唱和するそうです。

右の写真は、平成9年4月に建立された「入植50年記念樹」です。入植50周年は、入植2代目を中心にお祝いしたとのことでした。



入植された方々の多くは酪農を生業としました。現在、両地区で酪農をしているのは8軒だそうです。酪農は大変な仕事ですが、家族で助け合いながら作業をなさっているそうです。後継者がどの家にもいるとのこと、この時代に幸せだとおっしゃる方もいました。

とてもにぎやかな会で、わたしたちも楽しく参加させていただきました。東米泉・大清水の皆さん、どうもありがとうございました。



## 賀美石地区 夏まつり



平成29年8月15日、賀美石地区公民館で行われた賀美石地区夏まつりに行ってきました。

まつりは、賀美石婦人会の皆さんを中心とした宮崎音頭などの盆踊りから始まり、その後は子どもから大人まで楽しめる参加型イベントや、ドキドキの抽選会など多彩な催しが続きました。

まつりの中盤に行われた参加型イベントでは、プリンのお食いやラムネの早飲み対決が行われました。参加した子どもたちは、途中泣き出してしまいう子もいれば、逆に闘志を燃やす子も…。子どもたちが一生懸命がんばる姿に観客から多くの拍手が送られました。子どもたちの笑顔はみんなを元気にしますね。

会場内では「ワクワク緑日」として、わなげや水ヨーヨーつり、射的に挑戦できるコーナーや、かき氷や飲み物販売などもあり、親子連れでにぎわっていました。

このような楽しいイベントの陰には、準備や運営にかかわった区長さんや実行委員会の皆さんなどのご努力があります。話し合いや準備は7月頃から始めていたとのこと。当日も夕方から会場準備を協力して進め、本番では司会進行や子どもたちの見守りを行い、片付けまで…。本当にお疲れさまでした。

盛りだくさんの催しで、夏休み中の子どもたちにも、お盆で帰省した方々にも、よい思い出になったことでしょう。ちなみに「賀美石地区秋まつり」が11月に開催される予定とのこと。今から秋が楽しみです。

賀美石地区の皆さん、どうもありがとうございました。

## 賀美石の名木

### 児玉家

推定樹齢300年以上、宮城県で4番目に太いサワラ。一部は折れたものの、相当の雨風に耐えてきたそう。



賀美石地区には、長い歴史を見つめてきた名木がたくさん。

町指定天然記念物となっているもの（★印）を含め、7本の名木をここでご紹介します。

### 木幡家

もと孫沢城主だった木幡家には、名木がたくさん。カヤは、昔、実を食用や薬にしていたそう。イイギリは、秋～冬に熟す赤い実が美しい。高台にある木幡家から降り注ぐように咲くシダレ桜は、種まき桜として農業の目安ともされた。



### 賀美石神社（天王様）



### 鳥屋ヶ崎八幡神社



### 高橋家



樹齢300年以上とされ、県最古の老樹のひとつ。サイカチは「再勝ち」を願って、武士の家に多く植えられた。昔、実はせっけんの代わりとして使われたそう。